

日本ワインのためのブドウ畑拡大による 草原と豊かな生態系の創出

活動場所

長野県上田市丸子地区陣馬台地
シャトー・メルシャン
梔子ヴィンヤード



活動目的

メルシャンは「日本を世界の銘醸地に」というビジョン実現と日本国内製造ワイン（日本ワイン）市場拡大を受けて、遊休荒廃地を垣根・草生栽培のワイン用のブドウ畑に転換し拡大している。

ワインは産地と共に生きる運命にあり、自然、地域、未来との共生したワインづくりをめざしている。

活動内容

日本ワインのためのブドウ畑の拡大のターゲットを遊休荒廃地としている。2014年からの農研機構との共同研究によると、梔子ヴィンヤードで遊休荒廃地を垣根栽培・草生栽培のブドウ畑に転換することが、良質で広大な草原を創出しているが科学的に判明した。適切な管理を継続することで、引き続き貴重な生態系を維持・拡大させ、さらに地域全体でそれらの保全に取り組んでいく。

◆ブドウ畑の生態系調査

- ・ 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）と2014年から共同研究による植生調査を実施
- ・ 遊休荒廃地を垣根・草生栽培のブドウ畑に転換し、適切に管理することで、良質かつ広大な草原に貢献していることを確認
- ・ 2019年からは、畑の中のクモや土壌生物、鳥などの調査も開始



◆希少種・在来種の再生活動

- ・ 専門家とともに従業員参加による希少種・在来種の植生再生活動を実施。平均出現数が4年で約2倍に増加し、良質な草原へ
- ・ 多様なステークホルダー（国際NGO、ボランティア等）と共に、生態系を更に豊かにする取組みも2016年から継続実施
- ・ 地元小学生への環境教室の開催なども実施し地域全体の資源化



PRしたいポイント

◎事業活動を継続・発展させることが国内でも希少な草原環境を創出し、生物多様性の保全に継続的に貢献できること。

◎事業の早い段階で生態系への影響について、研究機関とモニタリング調査し科学的に取り組んでいること。

◎地元小学生の環境教育の場としての活用など、地域資源として多様なステークホルダーと協働していること。

活動効果、今後の展開 等

○ブドウの垣根・草生栽培による適切な草刈りにより、ブドウ畑が良質で広大な草原として機能し、繁殖力の強い植物だけではなく、在来種や希少種などが増加している。

○ブドウ畑の拡大に伴う草原環境の復活の他、従業員参加による希少種・在来種の再生活動も開始。引き続き事業を通じた生物多様性保全だけではなく、地域とのつながりを通じた社会課題にも複合的に取り組む。